

案件化調査

カンボジア国 粃殻くん炭普及のためのODA案件化調査

企業・サイト概要

- 提案企業：関西産業株式会社
- 提案企業所在地：滋賀県彦根市
- サイト・C/P機関：カンボジア・農林水産省(MAFF)

カンボジア国の開発課題

- 高額な輸入化学肥料への依存により農業生産費が高く、農民の農業所得が低い。
- 肥持ちの悪い土壌により肥料の使用が非効率であるが、土壌改良技術が普及していない。
- 国内で発生する粃殻の一部が燃料として利用されているが、大部分は有効に活用されていない。

中小企業の技術・製品

- 炭化装置：良質なくん炭を生産する環境配慮型の装置。装置の規模は、粃殻投入量でプラント式300kg/時、バッチ式50kg/日。
- 粃殻くん炭：土壌の「肥持ち」特性を改善し、化学肥料の投入量を抑制することで、農業生産費を削減することが可能。

調査を通じて提案されているODA事業及び期待される効果

- 農協に炭化装置を導入し、農協メンバーおよび関心のあるNGOや民間企業にくん炭の利用技術を普及することで、広範にくん炭の効果が認知され、土壌改良・化学肥料の削減に貢献する。
- 作物別のくん炭利用技術の開発・実証を行い、カンボジア国の農業政策に土壌改良策に盛り込むためのデータを整備するとともに、農民に対する普及活動も実施する。

日本の中小企業のビジネス展開

- 粃殻くん炭の利用技術および効果についての認知が高まることで、短期間でくん炭需要が拡大し、炭化装置の普及促進に繋がる。

